

芸術系教育機関に通う学生の COVID-19 に伴う厳しい実態の報告と、学校・国に対する要望

皆様は、実技を専門科目とする学生の学校生活を想像したことはあるでしょうか。私達 FREE 藝大は全国の美大・音大・専門学校・芸術系高校等、芸術系の教育機関で教育を受けている学生を対象に5月23日から7月8日まで、実態調査を行いました。今回の要請文では、その結果の報告とその現状に即した支援の要求を行います。

その調査から、本日は3つの点を指摘したいと思います。

① 学生は実技系のオンライン授業に満足していない

「友人との意見交換や制作ができない状況は取り返しのつかない損失である」(国公立大学 美術系 修士)

私達の調査では、実技のオンライン授業に対して満足していないと回答した学生が全体の約7割(別紙4-1)います。一方で座学の授業の方では満足していない学生の割合が約3割(別紙3-1)と、少なく、実技の授業をオンラインで代替することの困難性がわかります。

「工房が使用できないため、そもそも制作自体ができていません」(国公立大学 美術系 修士)

このような声からもわかる通り、芸術系の学生の中には制作・演奏活動の施設を学校に依存している者もあり、活動そのものを休止せざるを得ないケースも出てきています。

現状において、多くの実技系学生が望んでいる授業環境は、制作・演奏・学習の空間を共有して課題に取り組んだり、教官と学生が成果について相互に意見交換をすることができる講評会や練習会を開催するなど、現実の空間を前提としたものなのです。

このように、オンライン授業では普通の授業を代替できません。この状況はすべての学生から学ぶ権利を奪っています。私達のアンケートの中でも、「大学の設備を全く使えない中でも学費が今まで通りの額である点」が、不満であるという声も上がっており、学費を減免してほしいという思いは多くの学生が共有するものです。

② 休学を検討している人が10%強ほどおり、また様々な理由で休学という選択をすることができない学生がいる

「休学費用が高すぎて(休学が)できない」(私立大学 美術系 学部生)

「奨学金を借りている為、休学できない」(国公立大学 音楽系 学部生)

実技系学生の多くがオンライン授業環境に満足していないということは、先程申し上げましたが、それに伴い休学を検討している学生が回答した人の約10%(別紙6)いることがわかりました。また、休学せず通い続けると答えた学生の中では、「休学にお金がかかりすぎる」といった経済的な理由、「進路や就職活動に影響が出る」といった社会的な理由を挙げた人が多くを占めていて、いずれも積極的な理由で選択を行っているわけではないことがわかります。また、留年や休学を許さない奨学金制度も休学の選択を狭めている大きな弊害の一つです。

③ 体調を崩してしまう学生がいる

「体調を崩しがち」(私立大学 美術系 学部生)

「前年より制作に必要な金額が結果的に増え、精神的に困窮している。」(私立大学 美術系 修士)

今回の調査で、芸術系学生の中で健康上の不安を抱える人が何人もいることがわかりました。早急に学生の健康状態を調査し、学内の医療機関を拡充、活用したうえで適切な医療ケアを行わなくてはなりません。

以上の現状を含め、私達は以下六項を学校・国に求めます。

1. 国に、対面授業の実施のための費用負担を求めます。
2. 国に、すべての学生へ一律での学費の減免を求めます。
3. 学校に、漸進的に学校設備の利用を学生ができるようにすることを求めます。
4. 国、及び学校に、学生の休学条件の確保、そして無償での学期の延長の権利を求めます。
5. 国に、早急な学生、家庭への経済的支援を求めます。
6. 学校に、学生の健康状況の調査と、それへのケア体制の拡充を求めます。

以上

2020年7月30日

高等教育無償化プロジェクト FREE 東京藝術大学

代表 北澤華蓮 浅野雄大